



所属・職位	福祉健康科学部 福祉健康科学科 心理学コース・准教授	
氏名	飯田 法子 (Iida Noriko)	
取得学位	修士 (教育学)、大分大学、2011年3月	
SDGs目標		

研究分野	臨床心理学、福祉心理学
研究キーワード	子育て支援、心理支援
研究内容	<ol style="list-style-type: none"> 自身が発達障害を抱える母親の育児支援の研究 虐待の難治例の中には、母親自身に発達障害が存在するケースが多いといわれており、本研究では、その家族を支援するためのプログラムを作ることを目的としている。具体的には家族療法の様子を動画に録画し、その映像を子育て支援者とともに振り返り、子育てのエッセンスを学べるようなプログラムの開発を行っている。 夫婦間紛争における子どもの心理支援 臨床心理士（公認心理師）の立場から子どもの強制執行など夫婦間紛争の狭間にいる子どもへの支援について、実際に関わった家族への支援の事例検討を通して心理士の行う支援の在り方への提言や、子どもの意思に係る児童福祉的な観点から、提言を行っている。 保育現場の子育て支援に関する研究（大分県保育コーディネーターに関する研究） 大分県保育コーディネーター養成研修委員（平成27年～）の立場から、大分県独自の認定制度である大分県保育コーディネーターに関する調査研究を実施中（継続予定）である。
研究業績・アピールポイント	<p>子育て支援の中でも、特に、母親の発達障害や夫婦間紛争など子育て支援における心理臨床や、保育現場での支援に関して、実際に現場に入り、調査や開発等を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●論文 <ul style="list-style-type: none"> ・母親自身が高機能自閉スペクトラム症である4事例の育児支援についての一考察, 社会福祉科学研究, 2018年 単著 ・強制執行における「同時存在」についての一考察 — 「子どもの意思」の視点から—, 公益財団法人鉄道公財会, 2018年 単著 他 ●外部助成金 <ul style="list-style-type: none"> 「母親自身に発達障害がみられる家族への子育て支援プログラム」の開発・応用 ・平成30年度～32年度 日本学術振興会科学研究費補助金（基礎研究C）課題番号18K03164 ・平成24年度～26年度 日本学術振興会科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）課題番号24653207 ・「子ども引き渡しの強制執行への立ち合いにおける心理士の在り方」に関する研究 平成27年度「明治安田こころの健康財団」研究助成対象 ●著書 <ul style="list-style-type: none"> ・保育実践と児童家庭福祉論, 第15章 保育と教育・療育・保健・医療等の連携とネットワーク, 勁草書房, 2017年, 12月, 共著 他